



「楽しめる何かがあるから今頑張れる」

会長 S30 島本 誠

九州学院同窓生の皆様いかがお過ごしでしょうか？

昨年末は全国高校駅伝やラグビー部の花園進出で盛り上がり、年明けの箱根駅伝では卒業生達（数名は昨年の総会にも参加してくれました）が活躍し、おかげさまで九学OBならではの楽しい年末年始を過ごすことができました。

ところで先日の大雪には参りました。皆様それぞれ大儀なさったことと思います。南国育ちの私達にとって雪とお付き合いがいかに厳しいものであるか。雪国の人達がいかに苦勞なさっておられるか。雪かきによる筋肉痛とともにいろいろと学ばせていただいた数日間でした。

そのようなことがありながら、ついこの前年が明けたと思ったら早くも桜の季節となりました。それぞれの頭文字を取って、1月は行った、2月は逃げた、3月は去った、と言うようにあつという間の3か月でした。

「歳をとればとるほど1年が早い」とは年輩の方がよく口にされる言葉ですが、私も最近それを実感するようになりました。ある学者の説によると、歳をとればとるほど1年を短く感じるのは当然のことだそうで、例えば10才の人は1年が人生全体の10分の1であるのに対し、50才の人では50分の1でしかありません。このように、これまで生きてきた年数における1年のしめる割合が経過速度の感じ方を大きく左右するというのです。この説に則って計算すると、10才と50才では1年の感じ方に5倍の速度差が生じることとなります。驚きますね。

確かに幼いころは、「早く誕生日が来ないかな」「早く学校に行きたいな」「早く上級生になりたいな」「早く車の免許が取りたいな」「早く二十歳になってお酒が飲みたいな」等々、願望といえは歳を重ねないと叶わぬような事ばかりで、それぞれの年齢に達するのがとても待ち遠しかったような記憶があります。

希望や期待とともに待つ「楽しみ」はなかなか



東京九学会は楽しかですよ

目の前に訪れず、逆に、例えば通信簿の配布や予防注射、納期やメ切、または人前でのスピーチ等、労力や緊張の伴う、言わば楽しめぬであろう時間はあつと言う間に訪れる。このようなことから考えると時の経過をどのように感じるかは単に年齢を重ねることによるものではなく、年齢に応じた生活形態の中で直面する様々な事項によって変化するものなのかも知れません。年齢を重ねると役職や社会的責任も加わり、生活の中に楽しめないであろう事項が増えてくるのは当然の流れです。そのような時期こそたとえ多忙に追われる毎日であっても、希望や期待の持てる「楽しみ」を意識して生活の中に盛り込んでいくことを心がけたいものです。

趣味や娯楽、人それぞれ何でもいいと思います。あとで楽しめる何かがあるから今頑張れる。

そのような心もちが日々直面する一つ一つの事項に丁寧に取り組む力となれば、その積み重ねである1年はたとえ短く感じたとしても何かしらの充実感が残るものとなるはずで。

(*書は S37 池田光希さん寄贈)

「ありがとうございました」

九州学院 内村公春



2013年東京九学会総会にて

いよいよ九州学院を去るに当たって、こうして42年間勤務出来たのは、神さまのお支えがあったこと、またその時々先生方、生徒諸君・保護者の方々、そして卒業生の方々のお支えによるものと、心から感謝しています。

さて東京同窓会に参加させていただいたのは、緒方会長の時からでした。その後、連川会長、そして現在の島本会長と引き継がれるなかで、若手KG会も発足しましたし、共学による女性の卒業生の参加も増え、ますます盛んとなってきていることを本当に頼もしく感じています。この間、沢山の方々とお近づきになり、毎回楽しいひと時を過ごさせていただきました。本当に感謝です。ただ内空閑さんなど何人かの方々が天に召されたのは、今でも本当に残念です。あらためてご家族の皆さまに心より哀悼の意を表したいと思います。

さて九州学院の強さの1つは、同窓生のつながりです。私は、東京九学会など各支部同窓会に参加させてもらうたびに、そう思っています。母校に対する思い、そして期待をどう反映させていくか、これも私が九州学院長として思っていたことでした。そのために、校訓の「敬天愛人」そして「自分で自分を監督し、役に立つ善人となれ」という教育目標を中心に、その時々教育方針の中でいくつかのキャッチフレーズを上げました。「同窓生

が誇りに思える学校づくり」、「生徒が輝く学校づくり」、「原点に立つ」、「来て良かった、やって良かった、出て良かった学校づくり」等々です。しかしいま振り返ればご期待にあまり添えず、本当に申し訳ない思いでいっぱいです。

42年間の中で、本当に悲しく辛い思いをしたこともありました。それは在学中に、何人かの生徒が天に召されていったことです。交通事故、病気、事故など原因は様々ですが、その時々保護者の方々の悲しみを思い出せば、胸が塞がる思いです。

また私にとっての最後の「九学通信」に書いたのですが、一番印象に残る年が2011年でした。いうまでもなく、3.11の東日本大震災が起きた年ですし、九州学院が創立100周年を迎えた年でもありました。誰もが思ったことでしょうか、あの津波の破壊力の衝撃は、世界の終わりを予感させた出来事でした。その後、マスコミを通じ被災者の方々のことを知るにつれ、「生きる」ということの大変さ、厳しさを感じましたし、自分自身や社会について改めて考える大事な機会とならざるを得ませんでした。そしてこうした中で、秋に創立100周年に式典等の記念行事を行ったのでした。このことは、ここまでの九州学院の歩みができることを神さまに感謝すると共に、創立者のブラウン先生、スタイワルト先生、初代院長遠山参良先生の想いを、今後の九学の教育にどう継承していくかの大事な出来事でもありました。つまり聖書の教えを基に、生徒諸君が「世の役に立つ善人となる」ことを目指す九州学院の教育の意味をもう一回確認したのでした。

今年、九州学院は103年目の歩みを始めています。そして私の去った後は、阿部新院長を中心に新しい決意で、九学をさらに発展させていただくものと確信しています。

最後になりますが、あらためて東京九学会の皆様方に、これまでのご支援を心から感謝しますと共に、今後も変わらず九州学院にご支援いただくことをお願いします。

本当にありがとうございました。

九学会の更なる絆を!!

顧問 連川 悠一

(S11)



学院のモニュメント
その7

2000年3月 卒業記念
卒業生一同

九州学院同窓会 参与
小崎義昭 (S4)

「どぎゃんかなるっど」

株式会社オピカ社長 S34 岡本 明*

母校の九州学院を卒業し、上京して早 32 年が過ぎてしまいました。いつまでも若いと思っていた私も、3 人の娘をもち、長女と次女は大学を卒業し就職そして留学と手を離れていき、最後まで残っていた三女も今年の 3 月に中学・高校 6 年間の課程を卒業することとなり、無事大学進学も決まりました。その 3 女の卒業式に出席させてもらった時に、「君が代」・「仰げば尊し」をこの年になって改めて耳にすると、九学に会い・九学を卒業し、そして今に至るまでのことを思い出しました。

私の人生すべては、九州学院との 2 度の出会いで、決まったような気がします。1 度目の出会いは、当然のことですが 1979 年 4 月に九州学院に入学したことです。

1 年 1 組田島先生のクラスでスタートした九学での学生生活、様々な友人に会い、大変刺激的で楽しい 3 年間を送ることが出来ました。部活では、1 年の途中からラグビー部に所属し、決して真面目に部活に取り組んだほうではありませんでした。きつい練習や雨の日の練習などついつい避けてしまい、ろくに練習もせずに試合に臨んでしまうわけですから、勝てるわけはありませんでした。しかし、校風ならぬ部風で「どぎゃんかなるっど」と、投げやりではなくどちらかと言えばポジティブシンキング的な「どぎゃんかなるっど」で乗り切ってきたような気がします。そして、その「どぎゃんかなるっど」の精神が、1996 年私が起業するときに大きな影響を与え、さらに勇気をもらう事が出来ました。

次は、東京九学会・KG 会との出会いです。起業してまだ 3・4 年たったころだったと思います、突然ラグビー部の後輩からの連絡が入り、飲み会を開くことになってその席で東京九学会の存在を知りました。

それ以来ずっと、東京九学会には関わり合いを持たせて頂いています。当時 30 代前半で、東京にこ

れといった知り合いもないまま会社を始めてしまった私にとって、都度行われる会合で聞く熊本弁にはどことなくホッとさせられるとともに、多くの先輩方が東京で活躍されていることを知り大変勇気づけられました。

おかげさまで、必死でやってきた会社も今年 20 周年を迎えることが出来ます。今後は、今年 4 月に名古屋営業所を開設する予定です。年内には東南アジア（主にカンボジア）からの人材を受け入れ、印刷技術を習得しその技術を自国に持ち帰ってもらうようにしていきます。さらにその人材の中から、カンボジアでの事業を任せるに値する人が出てくれば、躊躇することなく進出していきます。

私の尊敬する株式会社フォーバルの大久保秀夫会長が、経営者に大切なものは「出会いと決断」であるとおっしゃっています。高校生活 3 年間の先生・先輩・後輩そして同級生、上京してからの東京九学会・KG 会の人との出会いがなければ今の私はありません。そして、今でも色々な決断をするときには「どぎゃんかなるっど」と口にしながら決めています。

そして、3 度目の九学との出会いそれが、これからの自分を作り上げてくれるのではないのでしょうか？

今、弊社では 2 名の九学出身の同窓生が働いてくれています。熊本を離れ会社を経営する中で、九学出身の同窓生がそばにいてくれるだけでホッとしますし、これほど心強いことはありません。この 4 月には 5 名の新卒の仲間が増えますが、残念ながら九学出身の人はいません。今年も会社説明会を開き、新卒の方の採用を考えていますので、新しい同窓生が仲間になってくれる事を願っています。

最後になりますが、このような機会を与えてくださいました東京九学会の諸先輩の方々並びに尾上先輩はじめ東九通信編集部の皆様、誠にありがとうございます。

今後の東京九学会・東九通信の益々の発展を祈念いたします。

*東京九学会 会計担当役員



旭光 有限会社

代表取締役 緒方 榮喜 (S8回卒)

〒273-0041 千葉県船橋市旭町3-14-1
TEL(047)439-5669 FAX(047)439-5686
E-mail:kyokuko-86f-ogt@hkg.odn.ne.jp

寿司・季節料理
くまもと料理

あづま

TEL 03-3213-2728(休日:土・日・祝)

理 容

ニユー東京

TEL 03-3215-2538(休日:日・祝)

九学出身の方は2,400円(通常3,000円)のサービス料金でお待ち致しております。

〒100-0005 千代田区丸の内3-4-1(新国際ビルB1) 吉村 勉 (S9)

「地元 小国町について」

S55 禿 亮佑

皆様、はじめまして。この度、東九通信に記事を書かせて頂くことになりました、S55回卒の禿 亮佑と申します。

早いもので、私が卒業した年から10年以上の月日が過ぎました。当時を振り返ると九州学院で学んだことが今の私のベースとなっているのだと感じています。中学、高校と6年間在籍しており、中学3年から高校卒業までは敬愛寮で生活していました。寮では常に先輩方と一緒に気が休まることもなく、当時は辟易としておりましたが、今では礼節の大切さを学ばせて頂いたことに感謝しています。

卒業してからは東京の大学に進学し、そのまま東京で就職しました。現在は、システムエンジニアとして、製造業向けのシステム造りをしております。今回記事を書くにあたって、何を書こうか迷いましたが、私の地元について書きたいと思います。

私の実家は阿蘇の小国町というところで、熊本市内からは車で2時間ほどの距離に在しています。観光地として ゆうステーションや北里柴三郎記念館を有しており、黒川温泉への途中に通ったことがある方もいるかと思えます。最近新たな観光スポットとして加わったのが、鍋ヶ滝という滝になります。数年前に某お茶のCMでも紹介されましたので、もしかしたらご存知の方もいるかもしれませんね。滝の裏側にも回ることでできる珍しい滝で、落ちてくる水のカーテンの合間から緑の木々と木漏れ日の光が森林浴の癒しを誘います。ゴールデンウィークの期間中は滝を裏側からライトアップするイベントも開催されますので、今年のゴールデンウィークに熊本に規制される際は是非寄って頂きたいと思えます。

この他にも素晴らしい景色が眺められるスポットがたくさんあります。

先述した学生時代の話の、時が過ぎることによって感謝の念が生まれることと同じように、この小国町の風景も、上京してから遠く離れたことで、その素晴らしさを再認識することができました。このように帰るところがあることに対しての安堵



地元にて

感があるからこそ、地元から遠く離れた東京の地でも仕事を頑張れるのだと思います。

また、地元の話からは逸れてしまいますが、母校への思慕ということで、ここ数年は九学東京若手の会（以下 KG 会）で微力ではありますが少しばかりお手伝いをさせて頂いています。参加されている先輩方は様々な年代の方がおられ、アットホームな雰囲気の中で談笑させて頂いたり、時には背筋が正される様なアドバイスを頂戴することもあります。地元に戻らずとも、そこにはあたかも帰郷した時のような安堵感がありました。KG 会が私の中である種の心の拠り所の様なものになっています。これから上京される九学OB・OGの方々にとっても KG 会がその様な場所であって欲しいと思っていますので、微力ながらこれからも色々とお手伝いできればと思います。

以上、話がずれたり読みにくい箇所が多々あったかとは思いますが、

お読み下さり有難うございました。

「九学の思い出とこれから」

S59 高田 千尋

この春で大学を卒業して丸7年が経ちました。

昨年、大学院修士課程を修了し、企業に就職しました。現在は会社員として社会人2年目の日々を過ごしています。まだまだ先輩方に教えていただくことが多いですが、九州出身であることで可

九州学院 高等学校 昭和29年卒業生・同期生(S6, J4)首都圏在住者の会

井澤浩一

岩城之博

岩本秀雄

衛藤 潤

岡田浩二

緒方昭義

小田桐貞

尾上 賢

亀尾要道

工藤正路

齊藤穂積

佐藤公治

渋谷青彬

調 匡司

田浦幹彦

谷山準二

久憎会(久闊を憎む^{にく}二九年の会)は 随時 セミナ、見学会、国内・海外旅行などを行っています。

愛がっていただいたり、出身学校の話で盛り上がったたり、東京でも周囲の方々とつながりをもっていただけるのがとても有難いことだと感じております。

今年の春一番が吹く頃、卒業のニュースを見聞きし、私は九州学院の卒業式に参加していないことを思い出しました。卒業式の日が大学受験の日であり、その日はちょうど試験を受けていたのです。今思い返せば、その試験で合格した大学を卒業したわけですから、不思議なものを感じます。卒業式への参加はできませんでしたが、クラスメイトからのメールや翌日に職員室で卒業証書をいただいたこと、別の日に行われた部活顧問宅でのお別れ会で花束をいただいたことを思い出すと、私なりの思い出深い卒業を迎えることができたと思っています。

他に高校時代を思い出すことと言えば、先日、高校の修学旅行で訪れた北海道に再度行く機会がありました。修学旅行以来の訪問ですので、8-9年ぶりの訪道となりました。修学旅行のエピソードはたくさん覚えているのですが、「修学旅行」という独特の興奮もあってか、風景等々は断片的にしか覚えていませんでした。しかし、小樽の町並を見てると徐々に記憶が戻って来て、なんとも懐かしい気分になりました。何度も滑りそうになりながら歩いた雪道、それまで食べたこともなかったイクラたっぷりの丼、それを囲む友人の笑顔、このような思いは今後どんどん増えていくのだろうと感じながら、そんな思い出をどれだけたくさん作れるかが、私の人生の彩りの多さとなるであろうと思ったりします。

高校時代は勉強とピアノ、大学時代はゼミと吹奏楽、大学院時代は研究に打ち込んできた私ですが、音楽は何らかの形で続けてきました。ピアノ、サクソ、オーボエを主に演奏しております。現在も会社の同好会で演奏する機会があり、年に数回ステージに立たせていただいております。会社での日々の業務では、何かにじっくり向かい合い本番に臨むということは少なく、何事も質と共にスピードが求められます。

音楽に触れあう時間は、作曲者や曲が作られた背景に思いを馳せ、難しいことを鍛錬によって成し遂げることの喜びがあります。そのオン・オフの切り替えがあってバランスよく過ごせると思います。

ですから、社会人になって趣味=オフを持つことが大切であることを痛切に感じました。拙い演奏ですが、いつか皆様の前で演奏する機会があれば幸いです。

最後になりましたが、在学時代、私は通学に片道1.5時間程度を要しており、朝課外に加えて受験のための習い事もしておりました。今考えると忙しくも充実した日々を送っていたな、と感じます。それに加え、現在少し大人になったな、と感じるのは、家族や九学の先生方は、そんな私に3年間対応してくださったということに感謝です。本当に、周りの方々との出会いによって、支えていただいて、夢に近づく活動ができていたのだな、と、今更ながらとても感謝しております。

就職はしましたが、勤務先の会社で、社会のために何ができるのかはまだまだ模索中です。今後も迷いながら忙しく日々を過ごしていくと思います。

しかし、九学で勉強したこと、教えていただいたこと、そして何より周囲の方々とのつながりを大切にし、たまに息抜きをしつつ、今後もひた向きに日々過ごしていきたいと思っています。

「マット君の英語教室」

英訳 おてもやん

編集部

今の世の中、盛んに「生きた英語を勉強しよう」と言われます。では生きた英語とは何か？“ただ通じるを超えて、気分・心が伝わる英語” だろうと思います。この点、われわれ九州学院の卒業生は幼少より、アメリカ人の先生方の薫陶を受けて大変恵まれた環境にあった訳です。ここで再勉強したいと思い立ち、わが東九通信編集部のエース、マット君 (Matthew Berzins: インマヌエルカレッジ-九学 S54 一国際基督教大学) に、熊本人なら誰でも知ってる“おてもやん”の英訳をしてもらって、その語法を考えて、S6 編集者が注記をつけることを試みました。実は、九学出てから殆ど毎日(理系の)英語に接し、勉強はしなかったものの多少は書けるつもりで試訳をし、真っ赤になっても直される位かと思っていたら、養生叶わず、初めから書き直されてコーサンです。やっぱり勉強しないといけません。

東京久憎会は 4月19日母校に集合し、卒業 60周年祝賀行事に参加します。

反後堯雄
鍋島 任
宮田康滋
小堀通治

種子島経
藤森 滋
村田秀夫
星子敏治

堤 達也
牧野克彦
安岡和男
渡辺芳孝

堤 誠一
宮尾睦朗
横田従治

(広告 順不同)

九学同窓生の参加を歓迎します。 contact to 谷山 090-4923-0344 尾上 090-1995-5507

おてもやーん！
 あんたこの頃 嫁入りしたではないかいな
 よめいりしたこたしたばってん ご亭どんが
 グシャッペだるけん まだ盃やせんだった
 村役 鳶役 肝いりどん あん人達のおらすけんで
 あとはどうなときゃあなろたい
 川端町ちゃん きゃあめぐろ
 春日(かすが)南京(ぼうふら)どんたちゃ尻ひっ
 ぴゃあて 花盛り 花盛り
 ぴいちくばあちく雲雀の子 玄白なすびのイガ
 イガドン あら おてもやん それ おてもやん
 ひとつ山越え もひとつ山越え あの山越えて
 わたしゃ あんたに 惚れとるばい
 それ 惚れとるばってん 言われんたい
 おいおい彼岸も近まれば 若もん衆もよらんすけん
 譜門品(くまんどん)の夜(じよ)聴聞(じよもん)
 参りにゆるゆる話もきゃあしゅうたい
 男振りには惚れんばな
 タバコ入れの銀金具が それが因縁たい
 アカチャカ ベッチャカ
 おてもやん それ おてもやん
 艱難辛苦の荒波越えて 男か度胸でおいでなさい
 やがて芽も出る 花も咲く移り気な浮世の習い
 に取り越し苦労はおやめなさい
 くよくよしたとてしょうがない
 意地とハリの心があ それが後生(ごしょ)楽
 (らく)たい
 アカチャカ ベッチャカ チャカチャカチャ
 アカチャカ ベッチャカ チャカチャカチャ

Miss Otemo

Did you get hitched¹⁾ recently?
 You betcha, but my husband's face is all pocked
 so we ain't²⁾ had no ceremony.
 The village heads, firefighters.
 Should³⁾ those people ever found out, mercy⁴⁾,
 what would they do for us.
 Let's go 'round⁵⁾ Kawabata town
 With all the ripe pumpkin and flowers upon
 flowers.
 skylarks singing "cheep cheep chip chip"
 and the eggplants with their thorns.
 Wow Miss Otemo, hey Miss Otemo.
 Go over⁶⁾ a mountain

Go over another mountain, over that one too.
 I've fallen in love⁷⁾ with you
 But I ain't no sayin it⁸⁾.
 As the festival gets⁹⁾ closer,
 all the youngins¹⁰⁾ will come 'round.
 I'll tell my troubles on the way to evening
 prayers.
 It's not his looks that I fell for
 But the silver clip of his tobacco case.
 And the rest is history¹¹⁾.
 Akachaka becchaka, Chaka Chaka cha!
 Miss Otem, hey Otemo
 You men get over ya'll¹²⁾ oceans of trials
 and tribulations with your courage
 Before long buds will sprout, flowers will
 blossom¹³⁾
 In this inconstant changing world,
 Stop stressing over what might happen.
 Ain't no use in worrying.
 A mind of will power and pride will get you
 free¹⁴⁾
 Akachaka becchaka, Chaka Chaka cha!
 Akachaka becchaka, Chaka Chaka cha!

マツト君 のメール (原文のまま):
 熊本弁をアメリカ南部で使う英語をイメージして
 訳しました。Hitched とか、ain't とか 'round など
 に直し、方言らしさを出して見ました。(Texas
 とか、Kentucky などによく聞く言葉)厳密で言えば、
 文法が間違っているが、それもその方言のポイント
 の一つです。(注:こういうことは poetic
 license と行って詩などには許されると聞きます)
 後は、「おてもやん」を“Miss Otemo”にしたこと
 で、a story about this lady”を明らかにするの
 ではないかと思いました。以下、編集者の注記
 1) get hitched: '結婚する'の口語 hitch ヒツチ
 ハイクの hitch ですが、英英の例文では
 move (something) into a different position
 with a jerk ものを急な動きで別の位置に動か
 す とありますから、普通の get married より、
 近頃嫁入りした・・によく合います。(jerk は
 加加速度の表現に使う)
 2) ain't: have not : have not had で否定の現在完了。



多摩八十八ヶ所第一番札所
 真言宗豊山派

安養寺

住職 島本誠永 (S30)
 東京九学会会長
 〒180-0002
 東京都武蔵野市吉祥寺東町1-1-21

東京九学会

幹事長

高森 重視

(S32)

後の no は要らない筈ですが、否定をダブルで使うことが話し言葉ではよくあります。

- 3) この should は主語 those people との倒置で、‘当然・・・筈だ’ の仮定法的用法 what they would do for us 我々にして呉れることが分かる筈だから、→ そうなら“どうなときゃあなろたい”
 - 4) mercy: ここでは “情” 等の名詞ではなくて感嘆詞：きゃあなろたい の ‘きゃあ’ を表現。
 - 5) go'round: 成句 go around の意 熟れた南京カボチャ、今を盛りの花々、ピーチク囀る雲雀、イガイガ茄びと一緒に川端町を回ろうじゃないか。
 - 6) over は “弧を描いて越える” という感じ
 - 7) have fallen in love: 恋に落ちてしまった／現在完了形で “惚れとるばい”
 - 8) これは I am not saying it: I can't say it と言うところですが、‘能力・方法の無くて言わない訳ではないので can not でない方がいいのですね。
 - 9) この get は状態の移行を表す動詞で get closer 近かまれば・・・がよく表現されています。
 - 10) youngin: ヤンゲン young one 若もん
 - 11) the rest is history: ゴチャゴチャ言わなくても分かるでしょう→タバコ入れの銀金具のせいですよ
 - 12) ya'll: you all 皆さん 試練と辛苦の海越えて
 - 13) will blossom: 習性の will + 動詞の blossom
 - 14) A mind of will power and pride will get you free: 意思の力と誇りの心意気があなたを苦勞から解放つ→意地とハリの心があ それが生後(ごしょ)楽(らく)たい
- 以上 注記が長くなってすみませんでした。

平成 25 年度九州学院同窓会神奈川支部支部総会について

神奈川支部同窓会会長 S14 荒木 傑*

神奈川支部総会は (S14) 村上様の司会により、平成 25 年 11 月 9 日 (土) 12:30 ~ 16:00迄、ホテル横浜ガーデンにて会員 32 名が一堂に集い、盛大に終了致しました。ご多忙の所、学院から 内村院長先生、同窓会参与の小崎様、副会長 岡嶋様、それに東京九学会島本会長、高森幹事長、岡本幹事、若手の会 松永会長のご列席を頂き、誠に有難うご

ざいました。宴は、(S1) 今村様の乾杯の音頭で始まり、恒例の (S4) 森田様の笑福おどりは会員の皆様が大変喜ばれて「生きがいがいっぱい」という踊りでした。

当同窓会として初めて (S12) 加村様が瑞宝単光章を受勲されました。

内村院長先生は学院を 12 年間「文武両道」と、学院の校訓であります「敬天愛人」のご指導を頂き、60 年振りに東大、京大に合格者を出しておられます。

小崎参与には永い間、神奈川支部発足以来いろいろとご指導を頂きました。当神奈川支部として、ご三名の方に気持ちだけの記念品を贈呈させて頂きました。以上、平成 25 年度九州学院同窓会神奈川支部総会の状況を報告致しました。

* 東京九学会副会長 (神奈川支部担当)

平成26年度東京九学会役員

相談役	旧 28	中園達哉	
顧問	S11	連川悠一	
会長	S30	島本 誠	
副会長	S25	岡本 恭崇	
副会長	S14	荒木 傑	(神奈川支部担当)
幹事長	S32	高森重見	
副幹事長	S25	中路孝博	
会計	S34	岡本 明	
会計補佐	S18	池部荷葉	
監査役	S11	川崎義春	
常任幹事	S 6	尾上 賢	(東九通信担当)
常任幹事	S30	高木宏一	(東九通信担当)
常任幹事	S11	鍋島英一	(ホームページ担当)
常任幹事	S32	本郷 久	(企画/渉外/東九通信担当)
常任幹事	S33	下田克彦	(企画/渉外担当)
常任幹事	S26	國武光徳	(総務担当)
常任幹事	S39	永谷隆史	(KG 会担当)
常任幹事補佐			
東九通信 :	S56	徳満優歌	S54 Matt Berzins
広報 :	S43	宮田哲治	S44 倉長一郎
企画渉外 :	S51	坂本泰亮	S51 坂本夕以
	S56	堀川 茜	
総務 :	S36	赤星貴司	



建設業許可 神奈川県知事許可(般21)第50909号

株式会社 **タイセイビルド**

取締役会長 **齊藤 征一郎 (S12)**

土木・建築・リフォーム・店舗・設計施工・建物総合保守管理
冷暖房・冷蔵庫・厨房設備・設計施工・メンテナンス

〒233-0016 横浜市港南区下永谷5丁目71番12号
電話 **045-823-8644**(代) FAX 045-826-2197
E-Mail: taiseibirudo@if-n.ne.jp
携帯電話 090-3223-0330



株式会社 **クリーンテック**

代表取締役会長

反後 堯 雄

(S-6 東京久憎会)

本 社 福島県福島市飯坂町中の字赤落27番
〒960-0261 TEL (024) 541-2811 FAX (024) 541-2510
東京事務所 東京都新宿区西新宿2丁目7番1号 小田急第一生命ビル12階
〒063-0712 TEL (03) 6304-5010 FAX (03) 5323-5750
URL : <http://www.clean.ne.jp>

平成 25 年度会費・寄附納入者

卒業回	氏名	卒業回	氏名	卒業回	氏名	卒業回	氏名	卒業回	氏名
旧28回	矢野 信一	S10回	西 義 幸	S20回	吉浦 聖二	S44回	倉永 一郎	S63回	増井 逸斗
旧28回	中園 達哉	S11回	川崎 義治	S21回	平井 伸二郎	S45回	村上 寿朗	S63回	清田 業緒
旧30回	稲富 昭	S11回	喜村 齐	S21回	坂口 竹末	S46回	清崎 雄二郎	S63回	清水 雅也
旧30回	松本 義郎	S11回	坂井 照夫	S23回	御法 隆徳	S46回	築茂 隆浩	S63回	内田 洋介
旧30回	湯谷 幸彦	S11回	曾根 精華	S25回	岡山 恭崇	S46回	村上 知恵	S63回	山村 隆博
S1回	今村 讚	S11回	高木 恵一	S25回	中路 孝博	S47回	野尻 和秀	S63回	荒木 建
S1回	藤堂 匡令	S11回	連川 悠一	S28回	高濱 英俊	S48回	上野 文裕	S63回	林 佑次郎
S2回	片山 謙治	S11回	鍋島 英一	S30回	島本 誠	S48回	清田 啓祐	S63回	前田 悟
S2回	林田 博之	S11回	満井 坦彦	S30回	高木 宏一	S49回	森川 修次	S64回	児玉 瑞樹
S3回	本田 章友	S11回	米村 博邦	S30回	竹内 徹	S51回	坂本 泰亮	S65回	中川 引太
S3回	佐藤 七郎	S12回	大田黒 貞男	S30回	松村 修	S51回	坂本 夕以	S65回	山村 隆博
S4回	森田 茂	S12回	齋藤 征一郎	S31回	木庭 浩介	S51回	迎 勇樹	S65回	左保 慶多
S6回	緒方 昭義	S12回	藤本 英輔	S31回	平井 英虎	S52回	森永 幸男	S66回	葉山 春香
S6回	尾上 賢	S13回	平井 洋一郎	S32回	浦田 春生	S54回	マツ・バーゼンス	J4回	井澤 浩一
S6回	佐藤 公治	S13回	藤枝 英一	S32回	大森 尚昭	S55回	矢野 拓慎	J7回	上田 皓章
S6回	田浦 幹彦	S14回	荒木 傑	S32回	片岡 茂	S55回	禿 亮祐	院長先生	内村 公春
S6回	谷山 準二	S14回	村上 豪将	S32回	兼本 浩一	S56回	徳満 優歌	九州学院	吉本 孝寿
S6回	反後 堯雄	S14回	村上 智信	S32回	高森 重視	S56回	堀川 茜	育友会会長	
S6回	宮尾 睦朗	S15回	入江 万峯	S32回	藤本 卓也	S58回	原 山		
S6回	村田 秀夫	S15回	江藤 昭宏	S32回	本郷 久	S59回	葉山明日香		
S6回	渡辺 芳孝	S15回	坂井 秀昭	S34回	岡本 明	S59回	坂田 知子		
S7回	石井 勢祐	S15回	笹渕 征三郎	S34回	竹尾 修一郎	S59回	高田 千尋		
S7回	山村 越	S15回	田上 英武	S34回	中川 健蔵	S59回	中濱 星矢		
S8回	森 稚佳之	S15回	東 精一	S35回	松本 弘二郎	S61回	松永 温色		
S8回	緒方 榮喜	S15回	山本 直行	S36回	赤星 貴司	S62回	逸木 賢郎		
S8回	馬場 諭	S16回	糸賀 嬢治	S38回	上田 貢司	S62回	今田 健人		
S9回	木村 正義	S18回	池部 荷葉	S38回	小松 竜太	S62回	緒方 誠将		
S9回	吉村 勉	S18回	上原 壽	S38回	小山 慎一	S62回	小山 裕樹		
S10回	出上 人志	S18回	江藤 隆幸	S39回	岩崎 学	S63回	日高 宗利		
S10回	岩崎 高紀	S18回	橋本 一彦	S39回	永谷 隆吏	S63回	山代 芽生		
S10回	坂根 信義	S18回	藤原 成一	S43回	松木 信宏	S63回	本田 慧		
S10回	西田 忠義	S18回	森田 丞生	S43回	宮田 哲治	S63回	本田 匠		

本会会員総数は、
 現在760名、本通信の
 発行部数は、本校・関
 係団体への送付、在
 熊卒業生等応援して
 下さる方々への贈呈
 分を含め1000部を数
 え、総会・懇親会、KG
 会・新卒者歓迎会、神
 奈川支部の会合、納
 涼会、ゴルフ会、観劇
 会、広報H.Pの運営な
 どが行われております。
 会の一層の発展のため、総会(本年は秋の
 予定)への奮っての参
 加、会費の納入をお願い致します。

お礼：年度末でお忙しい中、皆様 執筆有難う御座いました。

S6 尾上 賢、S30 高木宏一、S54 Matt Berzins、S56 徳満優歌



URL : <http://www.kg-kai.jp/>

九學東京若手の会 KG会

代表 永谷 隆史(S39) 事務局 坂本(S51)

〒168-0062 東京都杉並区方南1-8-17 株式会社オビカ内
TEL : 090-3492-5372 E-mail : s51sakamoto@kg-kai.jp

メール用QRコード
連絡はこちらから



株式会社 オビカ

岡本 明(S34)

〒168-0062 東京都杉並区方南1-8-17 Tel 03-5300-0722 Fax 03-5300-0723 <http://www.oka-p.co.jp>